

川場村新拠点地域の自立・分散型エネルギーシステム構築に係る計画策定事業

○応募事業：自立・分散エネ【計画策定】

○事業実施地：川場村 新拠点地域

○代表事業者：川場村

○共同実施者：なし

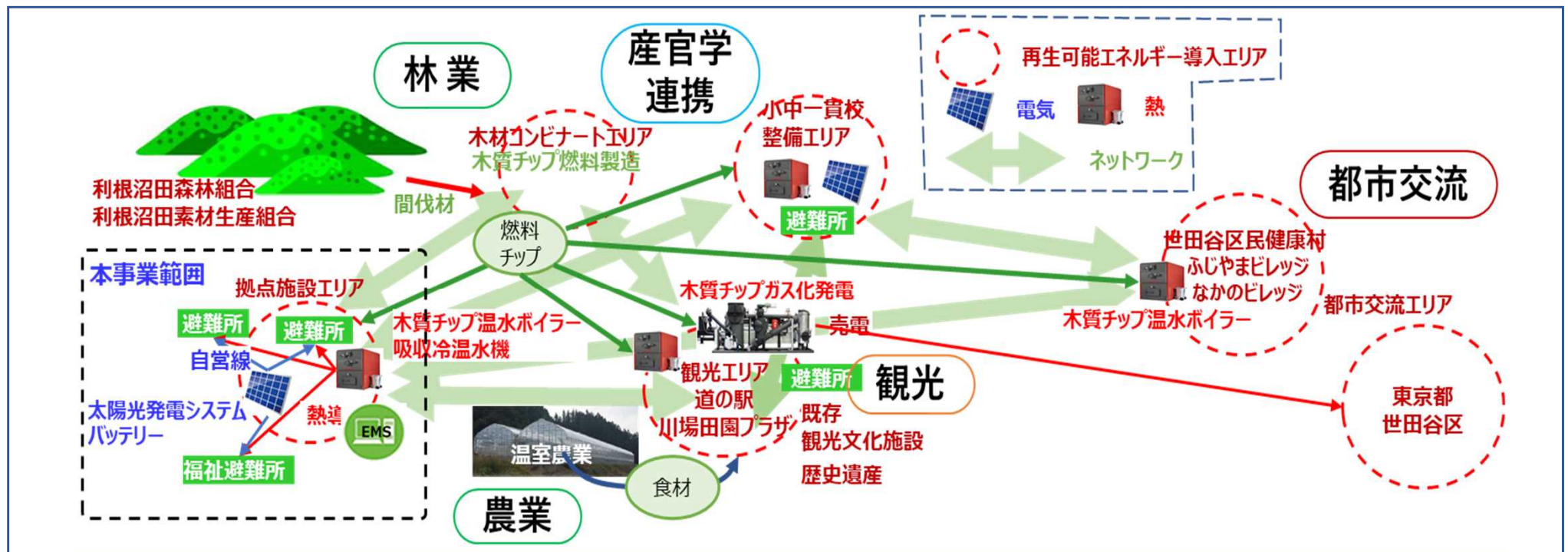
○地域課題

本村には、当面、①人口減少への歯止めを図り、人口の維持・増加を果たすこと、②a. 現在の村役場等の主要施設が老朽化し、安全性に問題があること、b. 村役場や学校などの主要施設が点在し、利便性が悪いこと、c. 「道の駅」に訪れる多くの観光客が周囲の施設へ回遊しづらいこと、③災害や有事の際の施設機能維持、日常利用・有事の際に共有できる施設・設備が求められていること、の「川場村の飛躍に向け解決すべき3つの課題」（「川場村100年憲章」より）がある。これらの課題とともに、④再生可能エネルギーを積極的に導入し、CO2削減を確実に進める課題がある。

○本事業を活用した地域課題の解決方策

「村拠点再構築計画」に基づき、本村の「3つの課題」の解決を目指して、①道の駅エリアと村役場エリアを重点的に再整備し、村の経済・行政の拠点を集約させる、②地場産業として林業・農業・観光を振興し、持続的な経済・文化発展の原動力を生み出し、人口減少への歯止めをかける、③可変的な施設機能の充実により、災害にも強い村拠点を築く。本事業との関連では新しく構築する拠点の諸機能を災害時でも維持できるようにするため、再生可能エネルギーによる拠点の自立化を行うとともに、周辺地域に点在する地場産業エリアにおいても再生可能エネルギーの自立的・分散的導入を進めることを考えている。

○目指す地域循環共生圏のイメージ



○事業概要

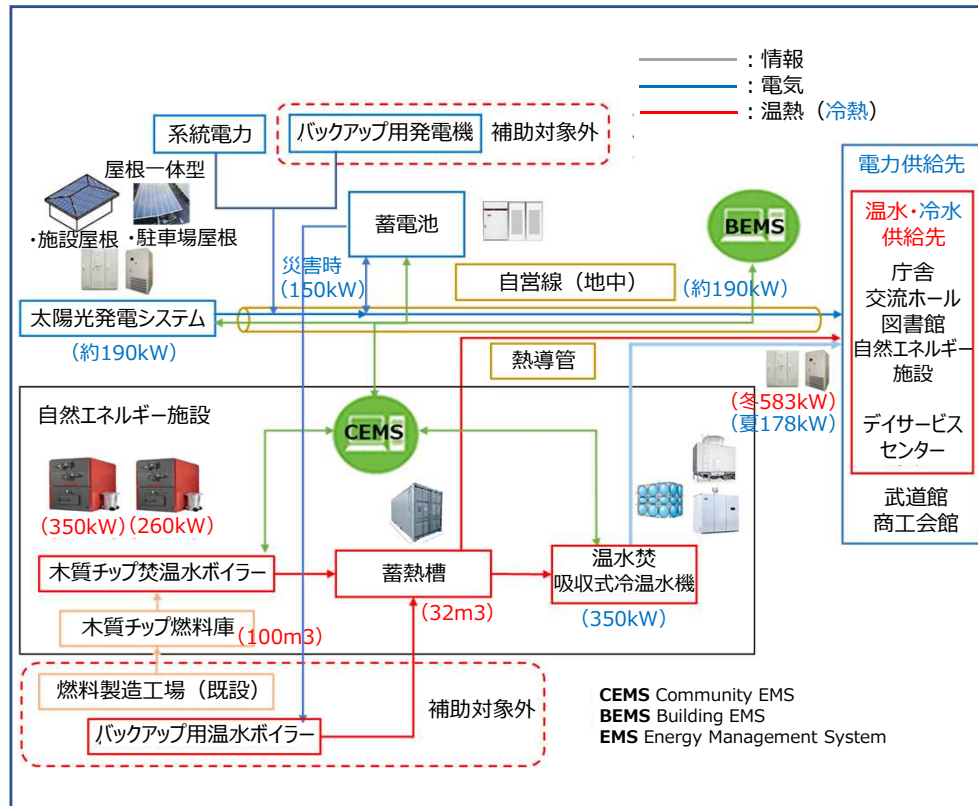
本事業は、地域循環共生圏構築に向けて先導的に進める拠点の再生可能エネルギー導入による自立化である。その中核が拠点地域内の「自然エネルギー施設」であり、ここでは、拠点内の施設や駐車場の屋根上に設置した太陽光発電パネル＋蓄電池による電力供給を行い、木質バイオマスボイラーと吸収式冷温水機等で暖房と冷房の熱供給を行う。エネルギー需給の安定制御・管理にはエネルギーマネジメントシステムの導入による情報ネットワークが構築される。拠点外の既設の木質バイオマス発電所（ウッドビレッジ川場）や既設の木質バイオマス温水ボイラー（ホテル田園プラザ、ふじやまビレッジ）も統合するエネルギーと情報のネットワークが整備される。

災害時は、蓄電池に貯蔵した電力によって木質バイオマスボイラーを稼働させ自立型熱供給を行う。万一この自立型システムが機能しない事態になった場合は、自然エネルギー施設や拠点内外の防災支援施設に設置される発電機による自立運転を可能にし、停電時のバックアップや冬期の暖房及び夏期の冷房を行う。

太陽熱や余剰熱を利用する農業施設を備え、通年型農業栽培を行い、平時は「道の駅 川場田園プラザ」で食材を提供し、災害時は寒冷期においても避難所の新鮮食材の提供を可能にする。

この拠点は今後の本村の飛躍の核となるものであり、時代が求める脱炭素化の流れに沿って、相互に多面的・重層的に連携・補完し合う「地域循環共生圏」を作り上げる。

○導入予定の設備等のイメージ



○事業の実施体制

川場村「自立・分散型地域エネルギーシステム構築」計画策定委員会を設置し、関係する産官学の代表者の参加を得て、事業の相互理解を深め、円滑な事業推進を図る。

